

ブルーベリーの第1期品種「TB-02, TB-04」の育成

宮下智人・荒井那由他・杉田交啓・鶴沢玲子*・大槻優華・小坂井宏輔^{*2}・山内佑紀^{*3}

・菊池知古^{*4}・鈴木克彰^{*4}・河野 章^{*5}・池田行謙^{*6}・窪田理美^{*7}・近藤 健^{*8}

(園芸技術科) *現区部普セ・^{*2}現江戸川分場・^{*3}現食料安全課・^{*4}現島しょセ八丈・^{*5}現農業振興課・^{*6}現スマ農室・^{*7}現農振事・^{*8}現管理課

【要 約】温暖地での省力化や高品質生産に向く2品種を育成した。「TB-02」は樹勢がやや強く豊産性の種間雑種で、果実は中粒で甘味が強く、省力的な房取り収穫ができる。「TB-04」はハイブッシュとしては比較的温暖地適応性があり、大粒で食味は極めて良好である。

【目 的】

ブルーベリーでは、果実品質の優れるハイブッシュ(HB)品種は暑さや乾燥に弱いため、東京などの温暖地では品質のやや劣るラビットアイ(RB)品種の栽培が主流である。また労力のかかる個別収穫は、規模拡大や人件費削減を妨げる原因となる。そこで、温暖地での省力化や高品質生産を可能とする新品种の開発を行った。

【方 法】

2003～2004年に種間雑種および自然交雑の実生個体を作出した(図1)。2005～2006年に定植し、2015年までに簡易な生育・果実調査により有望系統を1次・2次選抜した。その後は詳細に特性調査を行い、都内での栽培適応性(温暖地適応性)、生育、果実品質、房取り収穫適性(収穫の省力性)、市場性(宮下ら, 2021)などを総合的に評価し、2022年に最終選抜を行った。

【成果の概要】

1. 作出した実生約700個体のうち(データ略)、「RB ホームベル」×「HB スパルタン」交配の雑種個体は60個体、「HB エチョータ」由来の自然交雑実生は30個体であった(図1)。各々から「TB-02」(旧系統名 HoSp-S65G-13)と「TB-04」(同 2E0⑦)を2次選抜し、他の交配組合せ由来の3系統(データ略)を含む5系統を対象に、最終選抜に向けた詳細な調査を行った。その結果をもとに「TB-02, TB-04」を最終選抜し(表1)、育成を完了した。2023年11月に農水省に品種登録出願し、翌年2月に出願公表された。
2. 「TB-02」は樹勢がやや強く豊産性の種間雑種であり、果実は中粒で甘味が強く、単為結果性で種無しとなり食感が良い(図2)。収穫期がHBとRBの端境期であるため摘み取り園の中生品種として適し、省力的な房取り収穫ができるので出荷にも適する。「TB-04」は、HBとしては比較的温暖地適応性がある。摘み取り園の早生品種として適し、大粒で食味が極めて良好な高品質果であることから契約出荷にも向く。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 新品种は都内生産者に優先的に導入し、普及を図る。また果実の流通にあたっては、ブランド化に資する商標名を付して使用する。
2. 新品种の温暖地適応性はRBより劣るため、定植後に灌水を要するなどRBよりこまめな栽培管理が必要である。

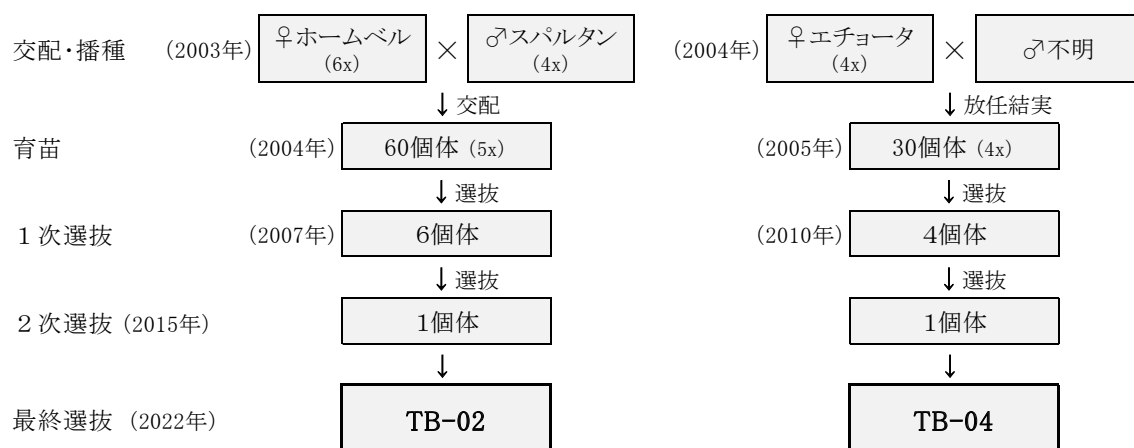


図1 第1期2品種の育成経過

表1 第1期2品種の主要特性

品種	種類	主要特性 ^b						食味 評価 ^c	都内適 応性 ^d
		樹勢	収量	収穫期	果実	単為結 果性	房取り収穫 適性		
TB-02	雑種	やや強	多	7月上～7月下	中粒	高	高	3.4～3.7	○
TB-04	ハイブッシュ	中	中	6月上～7月上	大粒	高	中	4.1	○
ティフブルー ^a	ラビットアイ	強	多	7月下～8月中	中粒	低	低	2.8～3.6	○

a) 対照; 都内基幹品種 b) 農総研圃場での調査 c) 2021-2022年, 普及指導員を主たる対象とした食味調査での総合評価; 1(不良)～5(良) d) 都内3圃場で5ヵ年栽培し, 栽培安定性, 樹勢, 果実品質, 食味をもとに総合評価; ◎優良, ○良好, △やや不良, ×不良

 TB-02 ・樹勢がやや強く豊産性の種間雑種 ・中粒で甘味強く, 種無しで食感良く, 落果少ない ・端境期に収穫でき, 摘取り園の中生品種に向く ・省力的な房取り収穫ができ, 出荷に適する	 TB-04 ・ハイブッシュとしては比較的温暖地適応性がある ・摘み取り園の早生品種として適する ・大粒で極めて良食味であり, 契約出荷にも向く
---	--

図2 第1期2品種の果実および特徴